

H30小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	端山園	代表者	山内幸雄	法人・事業所の特徴	平成27年 きょうと福祉人材育成認証の取得。 リガーレグループとの連携による各種研修への参加、伝達研修の実施。 プリセプターシップの導入。毎月1回木曜、コーヒーサロン、コンサート等実施、地域の方の参加あり。 秋祭りを開催し地域の方に参加してもらっている。
事業所名	栗栖野の家	管理者	田中雅憲		

出席者(人)	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計(人)
	0	0	2	0	0	1	0	2	0	5

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価を常に点検できるように、フロア会議に活用していく。	フロア会議で常に点検はできなかったようであるが、全てでないが取り組んでいる箇所も見られている。	不可能ではないが、フロア会議では他にも話し合うことが、沢山あると思う。	事業所自己評価を共有して、定期的にチェックしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者が過ごしやすいや清掃等の環境にも力をいれたい。引き続き、地域へアピールすることを検討する。	清潔はある程度、保っているようである。地域へのアピールはもっと積極的に行っ方がよい。	清掃はしているようである。何よりスタッフの笑顔が良く、それが利用者にとって一番の居心地良い環境だと思う。	利用者が居心地良く過ごせるよう工夫する。地域へのアピールを引き続き行っていく。
C. 事業所と地域のかかわり	引き続き保育園との交流は行い、地域行事の参加で地域との関わりを持ち、ライブやコーヒーサロンへのPRを行い、地域との交流を深めていく。	保育園との交流は定期的実施できている。ライブのPRは近隣団地などにチラシを配布して積極的に行うことができたとのことである。	保育園と定期的に交流ができて良い関係が築けているので続けてほしい。チラシ配布し積極的に行えた試みであったが、効果が薄かったのは残念である。	保育園との交流は定期的実施できている。ライブのPRは近隣団地などにチラシを配布して積極的に行うことができたとのことである。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	地域行事に参加し、地域と共に暮らす生活に取り組んでいく。	地域の行事の幾つかは参加した。近所の喫茶店に行くことや散歩などで地域にいることを実感できたと思われる。	利用者が事業所と自宅を往復するだけの生活でなく、地域が関与できる工夫が必要と思われる。	引き続き、地域行事に参加し、地域と共に暮らす生活に取り組んでいく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議での意見を全て活用できるように取り組んでいく。	運営推進会議での意見の活用は概ねできていると思われる。	毎回、事業所の報告があり、その中で事故などの報告などもされている。地域の案件は、地域包括や民生委員を中心に連携があり、その報告はされている。	運営推進会議を通して、地域の情報把握や意見を活用できるよう取り組んでいく。
F. 事業所の防災・災害対策	地域防災訓練の参加が前回出来なかった為、今回も引き続き計画する。	改善計画で、地域防災訓練の参加計画しながら出来ていないので、まずは職員の参加を実施するべきである。	毎月の事業所内での避難訓練を実施は良い。できたら、外に避難してその次何処に避難するか(公園)なども考えてもらいたい。	昨年に引き続きとなるが、地域の防災訓練の参加を職員が参加する。防災計画を運営推進会議で説明していく。